JICA 教師研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	髙橋　絵理	学校名	私立　白百合学園小学校
担当教科等	英語科	対象学年（人数）	６年桜組（20 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2022 年　10 月 19 日(水)4 校時 本時実施	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：英語科

2. 単元(活動)名：The Happy Prince ～My Happiness, Your Happiness～

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「The Happy Prince（幸福の王子）」

単元目標：

・学習した文字と音の関係に関する知識を使って、"The Happy Prince"を読むことができる。

・接続詞whenの用法を理解し、書いたり話したりして表現できる。

・"The Happy Prince"を通して、自分や他者の「幸せ」について考えることができる。

関連する学習指導要領上の目標：

【読むこと】

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

【話すこと(やりとり)】

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や 基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

【話すこと(発表)】

イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

【書くこと】

イ　自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

4. 単元の評価規準	①知識及び技能	・接続詞 when の用法を理解できる。
	②思考力、判断力、表現力等	・接続詞 when を使って、文を書いたり読んだりすることができる。 ・オリジナル誕生石のスピーチでは、堂々と紹介することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	・理解できないことがあったり、難しいと感じたことがあったりした場合は、自分から友達や先生に声をかけることができる。 ・困った友達にはヒントをあげたり、言葉を補ったりするなど、相手とコミュニケーションを続けるための工夫をすることができる。

5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒	【単元設定の理由・単元の意義】 “The Happy Prince”（幸福の王子)は、町に聳え立つ王子像が、ツバメの力を借りて、苦労や悲しみの中にある人々のために、自分の持っている宝石や自分の体を覆っている金箔を分け与えていくという物語である。自己犠牲的ではあるものの、このお

観、教材観、指導観）	話に込められた思いや心が、本校の建学の精神に沿うものと感じたため授業で扱う題材として採用した。そして、この物語に出てくる言葉や表現をツールに、児童にとっての幸せ、他者にとっての幸せについて考えるきっかけになればという願いのもと、本単元を設定している。これに至った大きな理由としては、SDGs 教師国内研修中に、様々な背景をもつ方々と出会う度に「幸せ」について何度も思いを巡らせたからである。特に、クルド人のタシくんとジアンさんや朝鮮学校のピ先生の存在はとても大きい。世界に目を向けると、国内紛争、国家間の戦争、環境問題によって人道危機に直面している方々が多くいる一方で、日本国内にも、それらの問題が複雑に絡み、「当たり前」の日常や人権が保証されていない方々が多くいることを知った。グローバル化が進み、ますます先の見えない時代を生きる次世代に求められる「幸せ」とはいったい何か、他者と豊かに暮らしていくための幸せの価値観はどんなものなのか、まずは目の前の児童が感じている幸せを切り口に、安心感のある雰囲気の中で、少しずつ思考を広げていきたい。もちろん、英語という教科内で、このような曖昧なテーマについて深く考えを巡らせるには限度があると感じている。しかし、英語を通して児童が自分の内面を見つめ、そして、様々な背景をもつ人々と出会うような時間を少しでも設けることは、学校現場で行う英語教育の責務であると感じている。 【児童／生徒観】 ・本校は私立の小学校(女子校)であり、経済的にも恵まれた家庭で育った児童が多く在籍する。英語を外部で習っている児童も多いが、そうでない児童も含めて、英語学習に対して前向きで、目標の語彙や表現などをすぐに吸収し、使う能力がある。高学年になってもスピーチやプレゼンテーション等の活動に積極的な姿勢を見せるので、気持ちのよい雰囲気の中で授業を進められる。 ・長引くコロナ禍で、家庭や学校双方の生活様式が制限され、少なくともストレスを抱えて小学校生活を送ってきた。自分の居場所に不安を抱えたり、家族や友人との関係に悩んだりしながら、日々を過ごしてきたであろう。今まで当たり前だったことが、そうとも言い切れない未来を生きていく児童には、出来事を客観的に捉え、他者と協力しながら、自分なりの幸せを見出していってほしい。 【指導観】 本単元において、児童が幸せと感じる瞬間を言語化することで、今ある日常がかけがえのないものであることを再確認したい。その際には、どんな考えが出たとしても、温かく受け入れられるような雰囲気づくりを心掛ける。また、友達と意見を伝え合ったり、異なる背景をもつ人々の「幸せ」に触れたりする場を設けることで、未来を豊かに生きるための気づきを促す場としたい。 第 3 時には、オリジナルの誕生石を作成し、発表する。自身の思う色や意味を宝石に加えていく作業を通して、時には友達と言葉を交わしながら、自己の内面を見つめ、より自分を好きになるための一助となることを期待したい。

6. 単元計画（全３時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	When do you feel happy?	・「幸福の王子」のお話を知る。 ・Prince/Princess happy/swallow などの基本的な語彙に親しむ。 ・When S V の用法を理解する。	①“The Happy Prince” Part 1 を読む。 ALT の読み聞かせを聞き、お話を想像した後に、Part1 を音読する。 ②when S V 構文の練習をする。 ③"When do you feel happy?" "I feel happy."のやりとりをする。 ・友達と紹介し合い、共感できたらリアクションする。 ④ "For Every Child, A Better World” ・教員は数ページ紹介する。 ・2 つの絵を比較し、Every Child Needs…について考える。	“The Happy Prince” ワークシート 絵本 “For Every Child, A Better World”
2	When do you feel happy?	・Part 2 の内容理解 ・接続詞 when を使って表現できる。 ・自分の誕生石とその意味を英語で知る。	①“The Happy Prince” Part 2 を読む。 ALT の読み聞かせを聞き、お話を想像した後に、Part 2 を音読する。 ②when S V 構文の応用 I feel happy when …. I feel sad when I feel comfortable when… ・スライドを 1 枚作成し、プレゼンテーションを行う。 ③”Happy Moments” movie ・JICA のベトナムコース「幸せとは何か」の動画を見る。 ・共感したものを記録する。 ④Birthstone の導入 ・意味を知る。 ・"My birthstone is….. It means….."を使ってまとめる。	"The Happy Prince" ワークシート ロイロノート JICA のベトナムコース「幸せとは何か」の動画 誕生石の意味(英語版)一覧表
3	Let’s make my own birthstone!	・Part 3 の内容理解 ・オリジナルの誕生石を作ることを通して、自分の内面を見つめる。	①“The Happy Prince” Part 3 を読む。 ALT の読み聞かせを聞き、お話を想像した後に、Part3 を音読する。 ②My Original Birthstone を作る ・ペアで My birthstone を紹介し合う。 ・何名か、全体で共有をする。 ③when S V の復習をする。	"The Happy Prince" ロイロノート

7. 本時の展開（3 時間中 1 時間目）

本時のねらい：

・接続詞 when S V の用法を理解できる。
・接続詞 when を使って、幸せに感じる瞬間について友達や教師とやりとりすることができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 （10分） 展開 （25分）	1. あいさつ 2. “The Happy Prince” Part 1 を読む。 ①ALT の Reading を聞き、お話を想像する。 ②Part1 を音読する。 3."When do you feel happy?" ①担任の先生の Happy Moments を知る。	□机間巡視をし、会話に詰まっている様子があれば、言葉を補う。	絵本"Happy Prince" (PPT 資料提示)
	When do you feel happy? (あなたにとっての幸せの瞬間は？)		
まとめ （10分）	②"I feel happy when I…."の表現を練習する。 ③友達と紹介し合い、共感できたらリアクションする。 ④"For Every Child, A Better World” ・教員は数ページ紹介する。 ・2 つの絵を比較し、Every Child Needs…について考える。	□この時点では、どんな意見が出ても寛容に受け入れ、when S V 構文に戸惑いを感じている児童がいれば、ALT と協力して支援する。	ワークシート 絵本 "For Every Child, A Better World"

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

【知識・理解】

・児童のワークシート上の記録から、when S V 構文の用法を正しく理解しているか確認する。
・教師の発問に対して、when S V を使って思いや考えを伝えられているか確認する。具体的には、教師の発問に対し when S V 構文を使って意思を伝えられた児童は名簿上で記録する。また、児童同士が会話する際には発言に耳を傾けて、やりとりをすることができているか見取る。

9. 学習方法及び外部との連携

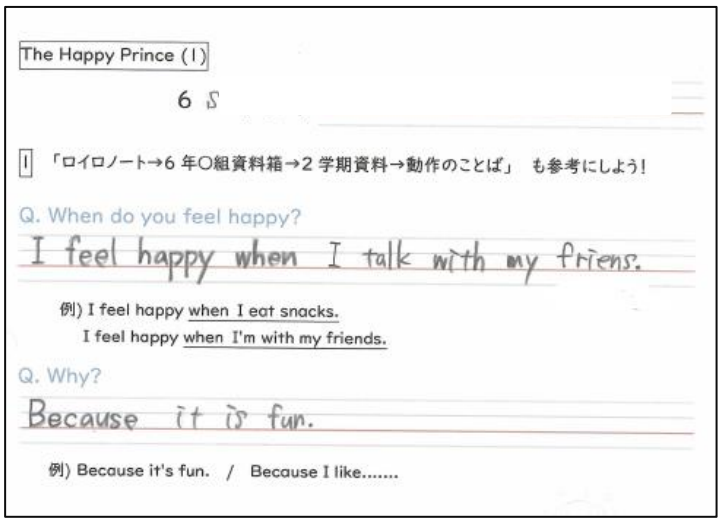
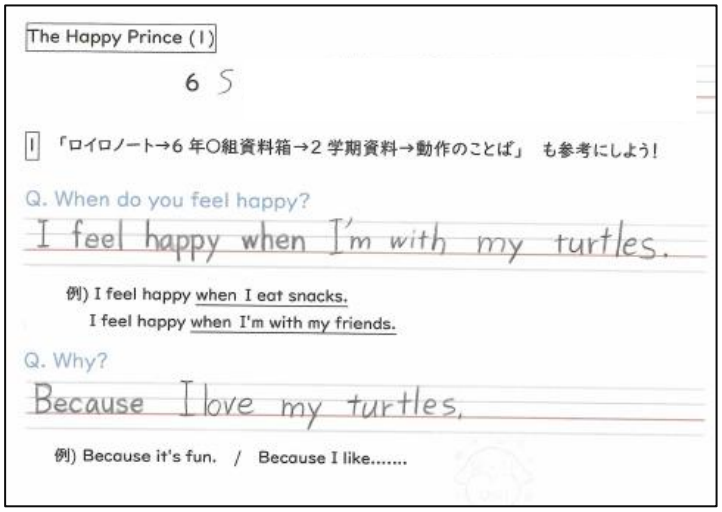
・国連出版の絵本
・JICA の過年度研修を受けた教員の作成した動画
・ロイロノート(クラウド型授業支援アプリ)

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

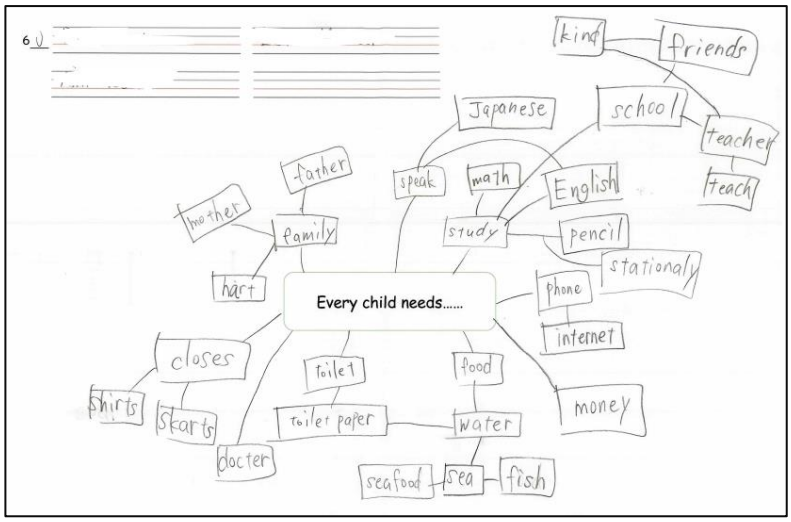
・1 年生からフランス語、3 年生からは英語を学習し、複言語教育を行っている。フランス語では、フランス語圏の国の方と交流したり、フランスの文化を体験できたりするような授業がある。英語では、年に１、２度ほどではあるが、インドネシアやベトナムと文化交流する機会がある。
・昨年度、SDGs の調べ学習を総合学習で行い、法政大学の教授がアドバイザーとして参加した。
・教員研修で、学年ごとに、年間カリキュラム上での SDGs との関連性を確認した。
・国際交流の一環として、カナダやベトナム、ヨルダンなど、数ヵ国の現地の方や在住日本人の方と ZOOM で交流した。現地の教育事情や文化について話を伺った。
・ズームを通して、フランスやニューヨークの美術館職員と交流し、アートについて理解を深めた。

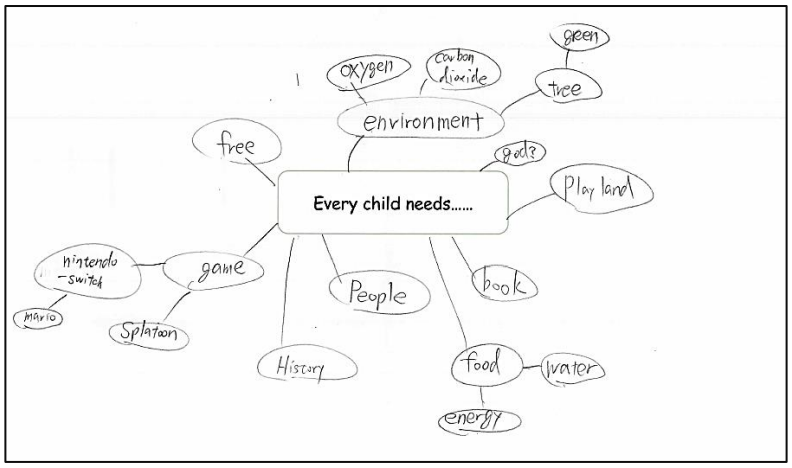
【自己評価】

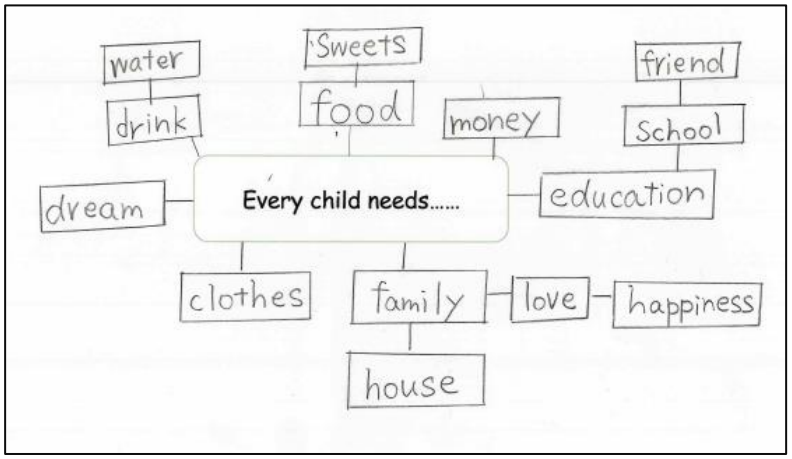
11. 苦労した点	・"For Every Child, A Better World"の本の扱い方に最も悩んだ。子どもたちが他人事と思わず、自分事として積極的に思考するにはどうアプローチすればよいのか、当日まで考えていた。"Every child needs to think, feel and decide." という文に込められた思いが大きく、また、英語の時間で背景を紐解くにはあまりにも複雑であったので、授業中に提示するかどうか決められないまま授業に臨んでしまった。 ・子どもたちの学習した少ない言語材料で、どれほど自分の"I feel happy when……"を表現できるか不安であった。
12. 改善点	【本時終了後、ご助言・ご指導を受けて】 ・翻訳サイトを使って自分の表現の幅を広げてくれたらと願う一方で、翻訳サイトで出てくる表現はあくまで与えられた言葉であるうえに、教員との会話の頻度も減るというご助言をいただいた。この視点をもって、いつ、どういうルールのもとで使用するのかという点を今後考えていきたい。 ・"I feel happy when…."を書くにあたって、テンプレートがあることの指摘があった。Because….の部分でもう少し表現の幅を広げてあげたらよかったかという反省が残る。できるだけ学習した言葉で子どもたちが精一杯表現できるように、ワークシートを工夫することを次年度に行いたい。 ・ALT との連携がうまくとれるようになってきた一方で、その授業のテンポのせいで取り残されてしまう児童がいるかもしれないことに常に気を配っていく。SDGs の大切としている「誰一人取り残さない」姿勢と雰囲気を授業でも大切にしたい。 ・40 人の一斉授業にて全員の意見を反映させる際には、書き言葉や話し言葉だけでなく、打ち言葉を活用する方法もあることを知った。読み書きの発達段階を見極めつつ、導入できそうな場面があったらチャレンジしたい。 ・授業を見学してくださったスタッフやインターンの方のご助言を受けて、"For Every Child, A Better World"の展開で改善すべき部分が見えてきた。まず、各ページの各文言に動画や写真をつけて、より具体性をもたせたい。例えば、"Every child needs clean water to drink."のページでは、実際に水を求めて歩く人々の動画を提示するなどして工夫する。また、最初に子どもたちから"Every child needs…."に続く言葉を自由に考えてもらい、その後、本の読み聞かせを行う代案をいただいた。そうすることで、子どもたちが自分の言葉で考え、その状況を十分に想像する余地を残せるかもしれない。 →実際に、単元計画の第２時実施前に１時間分設け、このアイデアを生かした。児童はグループになり、マインドマップ式にそれぞれの思う"Every Child Needs…."を自由に記述するような流れにした。思った以上に多くのアイデアが出てきたと同時に、はっとさせられるような発言が多く出た。さらに、共有することによって、「私の生活にはそれが欠けているかも」や「確かにそれは必要だよね」というつぶやきが聞かれ、児童なりに思考を深めている様子が伺えた。これについては、添付資料として載せている。
13. 成果が出た点	・子どもたちが生き生きと自分の幸せな瞬間を英語で語り、また、友達の幸せな瞬間にも積極的に耳を傾けていた姿に感動した。当たり前の日常に喜びを見出し、それをクラスで共有できたことに価値を感じている。 ・Birthstone の活動では、こちらが宝石の形を何パターンか用意していたにも関

	わらず、児童は自由に宝石をかたどり、自分の選んだ色で塗っていた。漢字に「羽」がついている児童は、自分の宝石に羽をつけてみたり、自分の性格を書き出し、それに合わせて色を付けていたりと、工夫する児童が何名かいたのが印象的であった。それを言語化し、発表し、周囲に認めてもらう機会を作ることができたことは１つの成果であると感じている。
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	●本時　"I feel happy when…"児童の記録  The Happy Prince (1) 6 S 1 「ロイロノート→6 年○組資料箱→2 学期資料→動作のことば」 も参考にしよう! Q. When do you feel happy? I feel happy when I talk with my friens. 例) I feel happy when I eat snacks. I feel happy when I'm with my friends. Q. Why? Because it is fun. 例) Because it's fun. / Because I like.....  The Happy Prince (1) 6 S 1 「ロイロノート→6 年○組資料箱→2 学期資料→動作のことば」 も参考にしよう! Q. When do you feel happy? I feel happy when I'm with my turtles. 例) I feel happy when I eat snacks. I feel happy when I'm with my friends. Q. Why? Because I love my turtles. 例) Because it's fun. / Because I like..... The Happy Prince (1) 6 S 1 「ロイロノート→6 年○組資料箱→2 学期資料→動作のことば」 も参考にしよう! Q. When do you feel happy? I feel happy when I eat sweets. 例) I feel happy when I eat snacks. I feel happy when I'm with my friends. Q. Why? Because it's so delicious. 例) Because it's fun. / Because I like.....

●第２時　"Every Child Needs…"の児童の記録







15. 授業者による自由記述	授業を終えてみて、英語という教科の目標・目的を踏まえたまま、今回の SDGs 教員研修で得た学びを扱い、深めることを改めて難しく感じた。今回は、自分を中心に幸せについて語り合ったが、他教科(特に社会や国語)と連携することが必須で、これにより自己を超えて他者に目を向けるチャンスが作れるのではないかと確信している。単教科のみであると、得られる知識も浅く、思考の広がりに欠ける。専科担任制をとる本校だからこそ、普段から他教科教員と密に話し、他教科の学習内容にアンテナをはる大切さを学んだ（自身の今後の最重要課題かもしれない）。

使用した教科書・単元名："The Happy Prince(幸福の王子)"を読もう！

参考資料：Kermit the Frog (1993). "For Every Child, A Better World』.　Muppet Press・The United Nations

SK. Liu・Wendy Lee 他(2007).『Ready, Action! 2nd Edition』シリーズ. A*List

Oscar Wilde (2018).　『The Happy Prince』.Thames & Hudson.

アレン玉井光江(2011).『ストーリーと活動を中心とした小学校英語』.小学館集英社プロダクション.

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを
JICA ホームページに掲載しています。　是非ご覧ください！
https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html